倉沢里山を愛する会 会報

ENJOY アリスの丘 風の丘 Farm
NEWS LETTER

倉沢里山を愛する会
アリスの丘ファーム
会　報
NEWS LETTER No.50.
2009(H21)年　夏号
2009年7月1日発行
発行責任者　峰岸純夫
〒191-0033
東京都日野市百草698-6(田村)
TEL/FAX（042)592-5859
Email: info@alice-fm.info
URL: http://alice-fm.info

ニュースレターは50号、私は77歳に

会長　峰岸 純夫

倉沢里山を愛する会のニュースレター創刊号が発刊されたのは、２０００(平成１２)年５月２８日、今年は１０年目に入り、本号は５０号の記念紙にあたる。そのとき私は６７歳、今年は喜寿である。人は毎年一歳ずつ重ねるが、ニュースレターは当初は毎年隔月で６回、現在では季刊４回となっている。そしてあと９年すると、私の年令に号数が追いつくことになる。そのころまで元気でいたいと思っている。

さてこの間、いろいろなことがあった。石坂家の相続問題に端を発し、相続人の田村はる子さんと夫裕介さんが協力し、他の相続人と相談して里山の保全の方向を確認し、近隣住民の支援も得て市や税務署を説得して里山を残し、今日のパートナーシップ協定の基礎を作った。この手法が継続されて倉沢の地権者たちは、その後の相続に際して里山を市に寄付しつつ相続を成功させるという方法を踏襲してきた。それに伴って、会の管理範囲も拡大の一途をたどってきた。

会の理念に賛同する市内外の人々が活動に参画してきて、活動回数を増やした最近でも毎回の作業日には４０～５０人の方々が参加する活発な会となっている。もとより中心を担う事務局を引き受けてくれている田村夫妻の努力に負うところが大きいが、会員の方々も身を粉にして積極的に活動してくださり、ありがたいことである。最近では、伝え聞いた見学者もひっきりなしである。歳月を重ね、その時々に生起する難問も、一つ一つ解決して乗り越えてきている。

いったい自分は何のためにやっているのかなあ、と考えてみた。やはり自分のためにやっているのだなーと思った。自然のなかでよい汗をかいて、それが健康と交流の源泉となっている。だから、何時までも会員であり続けたいと思っている。多くの仲間と一緒に。

4/18散策会の前に参加者全員で10年目の記念植樹（エドヒガン）

里山の植物誌（49）

イワガラミ（ユキノシタ科）

アリスの丘を上り、長久保緑地方面に下る崖地にヤマアジサイと花期を同じくして咲いています。２種類とも同じように枝先に集散花序を出し、結実する小さな両性花と、雄しべや雌しべが退化して飾りだけで結実しない装飾花とでできているのですが、観ているとヤマアジサイとの違いに気付きます。一方は幹や枝から気根を出し、ほかの大きな樹木や岩に絡んで這い上るツル性の木だし、葉の縁は鋭い鋸歯で、飾り花がこんなに大きくて１枚なんて（蝶が羽を1枚ずつ着けていったような感じ）など。

里山にはグミ・マサキ・ウメモドキにツルを付けたツルグミ・ツルマサキ・ツルウメモドキもあるから、「エイ！ツルアジサイかツルヤマアジサイにしておこうか。」とも考えましたが、そういうわけにはいきませんでした。

旅行して山地に入り、咲いている場所・ツル性・葉の形までもそっくりさんを見かけることがあります。遠目には同一と思えますが、装飾花のがく片の数が３～４個ならツルアジサイで、1個ならイワガラミです。がく片の数でばっちり区別ができます。ツルヤマアジサイというヤマアジサイはないようです。

アジサイ・イワガラミともに同じ科ですが、属はアジサイ属とイワガラミだけはイワガラミ属とに分かれます。百草地区で他に自生しているのを見たことがなく、日野市でも希少種です。崖崩れなどで自然消滅することが懸念されます。近距離の管理地内に挿し木をして残るようにしたいとも考えていますが、どうでしょうか。

（峰岸立枝）

長久保緑地に夢見て

五十子　満大

会員のほとんどのみなさんはご存じのことでしょうが、あらためてこの場所を見てみましょう。

図1. 長久保緑地（中央左下長い建物は帝京大学運動部建屋。長久保の名前は寄付者である石坂忠夫さんのお宅の昔の屋号）

この土地は里山を残そうという私たち会の考えに賛同されて石坂忠夫さんから大半を日野市に寄付されたものです（もちろんこんな棚ぼたのような話は突然起こるのではなく、会長・事務局長夫妻の長年の努力と信頼関係の積み重ねがあってのものです）。

図1. で見られるように周辺は家が建ち、石坂さんが畑地として残そうと努力された結果の緑地ということが伺えます。面積は全体でおよそ9,000㎡です。日野市とのパートナーシップ協定に基づいて管理しますが、このうち住宅地に接した竹林と急傾斜地などおよそ6,000㎡はお元気な石坂さんが分担し、私たちの会では南側の高台部分3,000㎡を管理エリアとしています。図2. の赤枠の範囲です。この部分は畑地として整備したため外から土を入れ整地し、一部には果樹の栗や柿の木が植えてありますが、極端に言うとまっさらな裸山状態で、それだけ自由度があります。

この場所をどういう景観の里山にするか幹事会で話し合いました。その結果が図2のような構想です。まだまだ始まったばかりのところで、今後、話し合いの中ですばらしい里山の再現ができるのではと夢見ています。既に３月にコナラとクヌギ、3年程の苗木あわせて100本を植えましたが、苗の大きさは高さ60cm、順調に成長して６m程になるのに15～20年と時間がかかりますが、会員のお子さんやお孫さんが憩う姿が目に浮かびます。そして次世代に確実に受け継がれて行くでしょう。

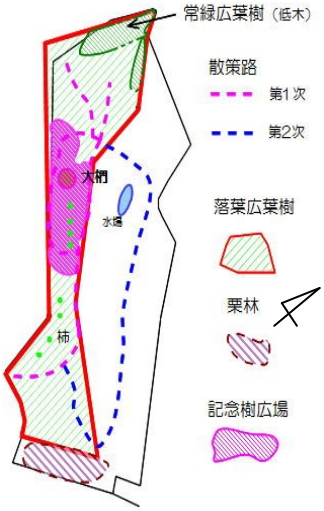

図2. 長久保緑地構想

管理エリア西側（図2では上側）の住宅地に接した部分は低木の常緑樹として日照や落ち葉の影響を少なくし、最も高い南側中央部の大クヌギ（現在高さ6m位）の周辺100坪ほどを記念樹広場とし、倉沢里山に相応しい木という条件の中で、会員それぞれが思い出のある樹木を植え、憩える場所にし、その周辺はコナラやクヌギの森にする。もちろんこれまで維持管理してきた倉沢からの草木も景観保全や保護を中心に移植なども考えています。散策路はピンクの点線で示したように維持管理と観察のための通路を中心に配置し、将来は杉林や竹林となっているところも植えたクヌギやコナラの生長によって保水量も確保され、水場もでき、それを通じて新たな散策路（第2次）も作っていきたい。これもまた夢です。

愛する会に入会しました

日野市三沢　　鷹觜　剛

みなさんこんにちは。４月から「倉沢里山を愛する会」に入会しました、鷹觜（たかのはし）と申します。

はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。家族は妻と小学６年と３年生の娘２人の４人家族です。家族全員で会に入会しました。私の出身は埼玉県ですが、今は日野の三沢に住んで１０年近くたちました。妻と会の幹事である棚橋さんとがちょっとした知り合いで、棚橋さんの勧めもあり入会することになりました。棚橋さんから畑をやらないかとすすめられ、畑作業など経験のない私たちが出来るのだろうかと少し迷いましたが、昨年家の庭できゅうりの苗を植えて育て、たくさん採れたことが嬉しかったし、子供たちも出来たきゅうりを楽しそうに採っていたことを思い出し、今度は広い畑でいろいろな野菜を育ててみようと思いました。

それに、緑地保全のボランティア活動の一部として「アリスの丘ファーム」があることも知りボランティア活動などしたことも、考えたこともなかった私たちですが、今住んでいる日野の里山をいつまでも残し、緑をまもり、自然と触れ合うことが少しでもできればと、会に入会して畑とボランティア活動をやってみようと妻と話し合い入会することにしました。

入会してはじめてのボランティア活動は、ひなた緑地の枝払いと下草刈でした。まだ正式に入会する前の３月で少し肌寒い日でしたが、たくさんの人が参加していました。みなさん一生懸命に枝をはらったり草を刈ったりしていました。私より年配の方たちばかりで、私も負けていられないと思い、一生懸命に枝をはらったり片付けたりしました。作業が終わると汗びっしょりでした。でも、とても気持ちのよい汗でした。それに作業が終わってからの「おしるこ」がとても美味しかったです。私も娘も２杯も食べてしまいました。

みなさんが自分たちの手で緑をまもり、里山にいる動物や植物を守り、日野の里山保全に真剣に取り組んでいる姿はとてもとてもすばらしいと思いました。そしていつまでも子供たちが自然と触れ合えるように里山を守っていこうと思いました。

少し畑のことを書いてみます。

畑作業はまるっきり素人です。畑をかりることが決まってから、本を買って読んだり畑をしている人に話しを聞いたりして始めました。でも棚橋さんがいろいろと親切に教えてくれるので大変助かります。

畑には、きゅうり・枝豆・ミニトマト・じゃがいも・里芋とすくすくと育っています。じゃがいもは芽が出るまで大変心配でしたが今では畑一面じゃがいも畑になってしまいました。７月の収穫時には近所の子供達も呼んで芋掘りをしたいとおもいます。たくさん出来ていればよいのですが、今から楽しみです。

以上、畑のこと・ボランティア活動のことを私なりに思ったこと、感じたことを書いてみました。これからもみなさんと一緒に頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

INDEPENDENT MEDIA“レアリゼ“という、新しいコンセプトのウェブメディアに倉沢里山を愛する会の事例が紹介されています。著者・主催者の了解を頂いて転載いたします。（紙面の関係で一部割愛） 詳しくは“レアリゼ“のサイトをご覧下さい。（http://www.realiser.org/）

都市農地を活用する試み(倉沢里山)

自然解説員・ライター　伴　昌彦

東京都日野市の百草・倉沢地区の雑木林は、閑静な住宅地の小高い丘陵に残された、クヌギやコナラなどの雑木林や竹林である。周囲には市民農園やリンゴ園、養鶏場などもある。こんもりとした雑木林に囲まれた傾斜地に畑が広がる風景には、山里の風情がある。倉沢里山は日野市内に残された最後の里山とも言われている。

里山に隣接する市民農園では、雑木林の落ち葉から作られた堆肥が使われ、小規模ながら雑木林が本来持っていた資源循環の仕組が維持されている。

これまで都市の農地、樹林地の多くは、莫大な相続税の支払いのために宅地として売却され、消えてきた。静かな倉沢の里山にも相続問題が生じたのは2001年のこと。通常ならば、ここも宅地に変わっていただろう。しかし、相続関係者や市民の情熱と努力、それに応じた行政の協力によって倉沢の地の緑は守られた。

緑地を守る運動の先頭に立ったのは事務局の田村夫妻（裕介さん・はる子さん）だ。はる子さんは、故郷である倉沢の里山の良さを地域の人々に知ってもらうため、前年の2000年に里山の散策会を実施していた。それが契機となって、日野市有の緑地での下草刈りや落葉掃きのボランティア活動が始まり、次第に参加者が増え、やがて「倉沢里山を愛する会」が結成された。

市民ボランティアによる緑地管理

2001年に相続の問題が発生した際、田村夫妻は相続人を代表して市と交渉し、緑地と農地を市に寄贈した。嬉しかったのは、山を残すための要望書を市に提出する時に、田村夫妻だけではなく周りの農家3軒もそれに賛同してくれ、その後の実際の相続に際しては、土地を寄付するなどして緑地を公有化してくれたことだという。

緑地を市有地として公有化するにあたって、日野市は条件を出した。それは、市有地となった後も、市民ボランティアが緑地を維持管理していくということだ。この条件の下で、公有地化以前からボランティア活動を実践していた「倉沢里山を愛する会」が緑地保全活動の担い手となることが決まった。

2004年には日野市とのパートナーシップ協定が結ばれ、里山の維持管理における市民ボランティアの主体的な役割が明文化された。パートナーシップ協定では、倉沢里山が循環型社会システムの実践の場として位置づけられ、農への活用など里山の循環活動の実践が謳われている。

現在の会では、月に２回、保全緑地の落ち葉掃きや下草刈りなどの管理作業を行なっている。公有化とは言っても、狭い面積に大勢の人が入ると、動植物の生育に悪影響を及ぼす恐れもあるため、いつでも誰でも緑地に入れるというようにはしていない。しかし、里山の自然の素晴らしさを知ってもらうため、地域の人々に里山を解放する日も設けている。解放日には、子供たちを対象とした自然体験も行なわれる。

アリスの丘ファーム

倉沢里山にとってもうひとつ重要な要素が、倉沢の緑地に隣接する市民農園「アリスの丘ファーム」だ。アリスの丘ファームは民営の市民農園として、地域の人々に親しまれてきた。こちらも相続問題が生じた際、雑木林と一緒に市に寄贈された。公有地となった現在も、以前と変わらず多くの人々の集う場所となっている。

一般に市民農園は人気が高く、申込んでも抽選にかけられることが多い。運良く当選しても、利用期間は通常２年間のみ。これでは、ようやく土作りが出来たと思ったらお仕舞いになってしまう。また、前の人がどんな作物を作っていたかも分からないので連作障害が出る場合もある。アリスの丘ファームの良いところは、会員である限り利用期間の限定がないので、ある程度長期的な展望を持って出来ることだ。

アリスの丘ファームを利用している人達は、雑木林の管理活動にも参加することになっている。彼らが林床を掃いて集めた落ち葉が腐葉土となって、畑の堆肥となり、循環の仕組が成り立っている。雑木林で切った材をホダ木にしてシイタケも栽培されている。シイタケやクリの実といった林産物も、管理活動の参加者の楽しみだ。作物は自分で食べることが前提なので、虫も農薬を撒いて殺すのではなく、一匹一匹潰していくという手間をかける人が多い。野菜作りに関しては一家言持つ参加者が多く、杭の立て方ひとつにしても意見が分かれたりする。もちろん仲が悪いわけではない。一区画では、一家族が自給できるくらいの野菜がとれるので、作物を周りの人と交換したりもするそうだ。

こんな風に、農作業を通じてコミュニケーションが生まれている。田村さん夫妻いわく、この会が長続きしている秘訣は、楽しみながらやること。雑木林の管理活動の後には、毎回、芋煮、シチュー、お汁粉など等の料理が振舞われる。調理をする側は大変だが、この楽しみがあるから会の活動が続いているとも言える。

コミュニティづくり

里山を愛する会が農作業や森林管理の作業を通じて作り出しているのは、コミュニティでもある。それまで地域と何の関わりもなかったサラリーマン達が、定年退職後に地域の活動に加わる機会を提供しているのだ。はる子さんによれば裕介さん自身も会社人間だったそうだ。はる子さんは「あなたもこの活動がなければ、人の奥さんと話すことなんかなかったでしょう」と笑っていた。

都市農地の存続のために

３回にわたって紹介してきた団体は何れも、農地の存在がコミュニティや生きがい作りの核となっていたが、市に寄贈された倉沢の緑地以外は、相続の問題などで、いつ消えてしまうか分からないのが現状だ。

「一歩の会」の宮秋さんは、市民農園や体験農園が各地で多く生まれている実態を鑑み、都市農地を、社会資源・社会施設として、私有地でありながらコモンズ的空間として位置づけ、そのために広く市民に農地の管理を任せる仕組みを作ることが必要だと考えている。

都市農地の持つ価値や、市民の果たす役割を正当に評価し、公益性のある市民農園などに供する場合は納税猶予の対象にするなど、そろそろ制度上の抜本的な見直しをしていく時期に来ているように思う。そうでなければ近い将来、農地は都市から姿を消してしまうだろう。

帝京大学生の見学（5/21）の感想集

文学部史学科　担当教授・義江 明子（本会会員）

近年、高校までの受験のための勉強から、大学での自由で自主的な勉学への切替がうまくできない新入生が増えている。そこで各大学では、１年次少人数クラスでの準備教育が行われるようになってきた。帝京大学では、「ライフデザイン演習」と名づけて、社会的視野を広げ、大学で学ぶことの意味と勉学法を学び、将来の自分について考える時間としている。里山見学は、地域を知るとともに、自然環境保護を自分自身の問題として考えるための企画である。

一昨年に続き、この「ライフデザイン演習」の授業の一環として実際に里山を見学する前に、先日配信された「リアリゼ」の記事（前頁参照）を使って、里山についての事前学習をした。見学前と見学後の学生の感想の変化を比較をしてみると興味深いと思う。

今回、「里山なんか見飽きている」という学生の事前の感想に接して、私は自分のうかつさに気づかされた。学生は全国から集まっているのに、私自身が都会っ子であるために、学生も自然の素晴らしさに感嘆するものとばかり思いこんでいたのだ。だが見学後は、田舎から出てきた学生も「当たり前と思っていた自然が、都会では貴重で、多くの人の手でようやく守られている」という現実に接して多くを学び、都会の真ん中で育った学生は、「東京にもこんなところがあったのだ」と驚きの声をあげた。学生の視野を広げ、将来の自分と社会に思いを馳せる、貴重な機会になったと思う。ありがとうございました。

（※ 紙面の関係で全員の感想を掲載することができませんでした。ご了承ください。事務局）

学生	事前学習で考えたこと	実際に見学した後の感想
A	里山についてボランティア団体が行っているという活動を知って、正直興味がわかなかった。里山散策をやってみて、何か自分の為になることを発見できたら良いと思いました。	倉沢里山を愛する会の皆さんが、里山を一生懸命守られていることが良くわかった。普段、里山にふれることがなく、興味がわかなかったが、今回、里山に実際に行くことで、里山の素晴らしさがわかったと思う。今後、このような里山が残るように、何か少しでも貢献したいと思う。
B	ボランティアの人達には大変な失礼にあたるかもしれませんが、あまり興味・関心ともに自分は持っていない。実際に行ってみて何か発見がある事を信じたい。	昔はどこでもあたりまえにあった自然が、今は多くの人々の努力によってしか保てないのはとても悲しい事だと思った。
C	里山がそこまで少ないとは考えていなかった。次回の見学で里山とはどのようなものなのかきちんと見ておこうと思う。虫はきらいなので、正直自分から行こうとは思わないので、丁度いい機会だと思う。	実際と想像していた里山のイメージがあまりにもかけ離れていたので驚いた。里山を見て、自然の繊細な部分にふれたような気がします。日本蜜蜂の話を聞いた時、変な言い方だが、日本だと思ってしまいました。機会があればまた行ってみようと思う。夏以外の時に。
D	私の家の周辺も里山と呼ばれる環境にあるので、もし、将来土地を相続された時に備えて、この里山学習で沢山の事を学びたいと思います。	想像していたよりも広く、とっても綺麗に整備されていて、気持ちよく見学ができた。本当にたくさんの人が力を合わせて管理をしているから、こんなにも素晴らしい土地が残っているのだと思った。
E	新しい関心事がまた一つ増えるかもしれないと、少なからず興味を持とうと思う。結果的に関心のない物事だったとしても、自分のよく知らない環境の人の話を聞くいい機会とも思う。	木々や植物が程よく生い茂っていて、風も涼しく快適な場所だった。更にいつも吸っている空気とはまた違った新鮮な空気を吸えたこと、そしてその環境を保ち続けている会の皆さんの努力に、とても感心した。
F	帝京大学の周辺に里山があるなんて知りませんでした。「倉沢里山を愛する会」の皆さんのおかげでその里山が守られたと聞いたので、すごいなあと感じた。	里山は自然が多くてすごくいいものだと感じた。東京ではここにしかない植物もあると言っていたので、今後も「倉沢里山を愛する会」の皆さんには頑張ってもらいたいと思った。これからは自然の事も考えて生活したいと自分でも考えた。
G	倉沢里山を愛する会の発足した理由が税金の為だった事を知り、物事の契機は色々な所に転がっているものだなと感じた。	実家の近くも似たような里山なので、とても親しみやすく感じた。また、植物の話だけではなく、倉沢の歴史なども交えて様々な話をしていただいたので、とても勉強になった。機会があったらまた行ってみたいと思った。

学生	事前学習で考えたこと	実際に見学した後の感想
H	２３区住まいで、山も畑も大学で八王子に来るまで、旅行でしかみたことがなかった身だったのだが、里山は名の通り「自分の里」の山であり、かたく守るべきものだと思う。	「山だ――畑だ――」と興奮していると、友達の「(私の)地元もこんなんだわ」には、ギャップを感じた。虫の多さデカさが凄い。普通の住宅と予想以上に近かった。相続税の事について詳しく話されていたので、よっぽど面倒な事があるんだろうと感じた。それでも里山を守り続け、話されていることはとてもイキイキとしていて、２３区内にも山の一つや二つは欲しいなと思った。
I	自分はあまり里山について知らなかったが、現在、自然を残すために住民の方々がさまざまな活動をしていることは素晴らしいと感じた。貴重な里山がだんだんなくなっていくのはとても残念なことだと思った。	里山といっても都内だし、そこまで広くないだろうと予想していて、実際に行ってみると想像以上の広さで驚いた。このような自然は今では貴重なものとなりつつあるので、少しでも多く残していって欲しいと思った
J	東京は高層ビルがたくさんある都会で、自然とか里山とかとは無関係だと思っていたから、こういう場所があることに驚いた。どんな所なのか興味がある。	私は田舎生まれて、里山の風景はとても身近で当たり前のようにあるものだと思っていたのに、それを保持するのが大変だとは思いもしなかった。自然をずっと大切にしていかなければならないと思った。
K	私の実家はかなりの田舎で周囲は里山だらけなので、正直いうと里山は珍しくもなんともないといった感じです。しかし、東京に来てからビルや住宅ばかりの中で、この帝京大学の近くの木々がとても嬉しく思いました。大都会の中での自然である数少ない里山のことを知り、考えていきたいと思いました。	東京に来てから倉沢里山のような森林を見ていなかったし入らなかったので、すごく懐かしく、新鮮な空気が吸えた。不思議な形の木や、木でできた橋、古墳などを見てとても興味が湧いた。田村さん達もとても親切に説明してくれて、最後にも「また来てください」と言って下さったので、是非行きたいと思う。自然豊かで、貴重な植物や鳥たちが生息する場でもある里山を、これからも愛し守って欲しいと思った。又、自分もその活動に少しでも参加できたら良いと思った。
L	人間のコミュニケーション不足や自然離れが進む現代で、自然と触れ合うことの大切さを、里山見学によって確かめることができれば良いと思いました。	里山を見て最初に思ったことは、正直「ただの山」といった感想でしたが、ボランティアの方々の努力なしでは山の環境も守れないという話を聞き、自然に対する見方が変わりました。
M	昔では家の近くにあたり前のようにあった森や里山を、現在ではいろいろな苦労をして守っていることに考えさせられた。守ることは大変なことだということが分かった。	空気がおいしそうだった。東京でクワガタを見れてよかった。古墳は自分が考えていたものより小さくてびっくりした。今まで知らなかったことや、里山を残す苦労などいろいろな話が聞けて勉強になった。
N	里山はどんどん減っていって、自然もなくなっているが、保護のためにコミュニティを作ったり、いろいろなことをして守っているのは、大変だなと思った。	里山に入ってみると虫がたくさんいたり、木や草がたくさんあったりして、東京ではなくどこかの田舎にいるみたいだった。また円墳や庚申塔など古い時代に作られたものがあって凄いなと思った。
O	私の家の周りには里山と呼べるものが無いので、見学するのが楽しみです。管理はボランティアで成り立っているということなので、大変でしょうが、その努力を続けているというところにすばらしさを感じました。	今回、実際に里山に行くことができて良かった。普段あんな自然の中に入るということがないので、とても貴重な時間を過ごすことができた。また、絶滅危惧種の保護をしていることや、人間と自然は共存していくことが大切であるということがわかり、とても勉強になった。ボランティアの皆さんにはこれからも頑張っていただきたいと思うし、私自身も自然を守って行きたいと思った。
P	父親の方の実家は山に囲まれているので「山」は知っていましたが、「里山」という所にはあまり行ったことがない（知らない）ので、人々が里山をどのように使用したり管理しているのかを見てみたいと思いました。	里山は普通の山と違い、人の手で管理されており人々の暮らしに大きく関わっているという点をすごく実感する事ができて、貴重な体験だった。また、古墳や庚申塔などの歴史に関わるものを見ることで、歴史を学んでいる私にとって里山がぐっと魅力的なものに見えてきた。
Q	里山とは、一番人が自然に触れることができる土地だと思う。実際にそこではどのような作物があるのか知りたい。	普通の山よりずっと管理されていて、住みやすそうな所だなと思った。祖父の家を思い出して懐かしい気持ちになった。空気も新鮮で良かった。将来こんな土地に住むことができたらなと思った。
R	今まで考えたこともなかった“里山”について学んで、おもしろそうだなと思った。ボランティアで「倉沢里山を愛する会」という会をつくって、みんなで里山を守ろう、色んな人に知ってもらおうとする活動はとってもすばらしいと思う。人と人のつながりを感じた。	数の少なくなってしまった植物を植えて育てるというような活動も行っていて驚いた。人が手を加えなければ、笹が生えて日が当たらず、木が育たない。そういった話を聞き、実際にも見て、里山とは、人間と自然とがうまく共生しているのだなぁ、と思った。
その他	里山という言葉は聞いたことがあったが、それがどういったものなのかよく考えたことはなかった。資源循環というとても大切な役割があることがわかり、里山を残していかなければならないと思いました。	東京にもああいう場所があるんだと思った。自分の地元も田舎なので何となく懐かしい気持ちになった。都会の中でもあのような自然は積極的に守っていくべきだと思った。

サバイバルゲーム場計画から学んだこと

八王子市　西田 照子

私は京王線の北野駅から徒歩２５分、バスなら７分程の絹ヶ丘に住んでいます。自宅の居間から白山神社の裏手の丘陵が額縁に入れた絵のように見えます。この自然が気に入り、子育てにも良い環境だと引っ越してきて２０年。新芽が萌え始める早春、木々の種類により微妙にみどりの色が違う初夏、葉をさまざまな色に染めながら暮れてゆく秋、小鳥の囀り、ときどき訪れる雉、都内とは思えぬ豊かな自然を存分に愉しんできました。また、散歩しては、ニリン草や金ランを愛で、土筆や野蒜を摘んでは、春の味覚を味わう、これも自然の恵みでした。

ところが、この白山神社裏手の丘陵にサバイバルゲーム場開設の計画が突如持ち上がりました。「サバイバルゲームって何？」「この静かな住宅地に何故？」と、最初は何がなにやら理解できませんでした。その日からおよそ１カ月の間、その問題に没頭しさまざまなことがわかってきました。前の丘陵が市街化調整区域であり、保全を含め地主さんの重い負担となっていること。サバイバルゲームがエアガンを使った大人の戦争ごっこだということ。このゲームを規制する条例はないこと――などなど。結局住民運動で反対の声を結集するほかはなく、地域の青少対委員会が「この地区は保育園、小学校、中学校のある文教地区。子供の健全育成によくない」と反対の先頭に立ってくれ、撤退に追い込みました。開設予定の丘陵に保育園児の散歩する赤道があり、業者はそのことに配慮して撤退してくれたのです。またマスコミも大きく取り上げ、「サバイバルゲーム場を住宅地に隣接して開設していいのだろうか？」と問題提起してくれました。

さらこの問題は、私たちに大切なことを気付かせてくれました。サバイバルゲーム場の進出でその自然が失われそうになって初めて、私たち住民がいかにこの緑の恩恵を受けていたかに気付かされたのです。市街化調整区域は建築物を建てられないなどの制限があり、それを所有する地主さんの（維持管理を含め）大きな負担となっていることも知りました。保全活動をやらなくては！一方的に恩恵を享受するだけでは図々しすぎるのでは？という気持ちが強くなりました。C.W.ニコルさんが６月２日の朝日新聞に、「日本中を旅して気付くのは、松枯れ病は行政がやってくれると住民が考えて無関心でいることです。松枯れ病を救うことができるのはそこに生まれ、育った住民です。お上はやってくれません。自然を守ることができるのは専門知識も必要ですが、一番必要なのは愛です。」と語っておられます。イギリス人でありながら、日本の森を守っておられるニコルさんならではの言葉です。私は、この無関心な住民だったと思います。ささやかなことしかできないかもしれないけれど、みどりを守る活動をしなくては――これが今回の問題から学んだことでした。そして、先駆的な実践をされている「倉沢里山」を見学させていただき、その「愛する」気持がなみなみならぬことに圧倒され、感動しながら、一層「やらなくては」との思いを強くしたのでした。

スタンプに誘われ倉沢へ

フリーライター　古沢　保

私は新宿に住むしがないフリーライターです。５月に田村さんにシロバナカザグルマの花を見せていただいたご縁で貴重な誌面にお邪魔することお許し下さい。

倉沢里山の訪問者としてはかなり異例だと思いますが、私をこの地に誘ってくれたのは１つのスタンプです。日野百草郵便局で使っている風景印というスタンプに、シロバナカザグルマの花が描かれていたからなのです。そもそも多くの皆さんは「風景印」という存在自体ご存じないかと思いますが、土地の風物を描いた美しい消印で、東京都内で約600局、全国では約１万１千の郵便局で使用しています。私は東京都内の風景印を全部足で廻って集め、そこに描かれた題材も自分の目で見て歩くことを趣味にしているのです。

現地を訪ねる前は、風景印のカタログを見て、シロバナカザグルマとは一体どんな花なのだろうと、中年男が柄にもなく胸をときめかせていました。百草地区のどこに咲くのかもよく分からぬ状態から出発し、インターネットで倉沢里山のホームページに行き当たり、田村さんに電話をしました。そうしてたどり着いたシロバナカザグルマは、風景印で想像していたよりもずっと大輪で、透けるような白い花弁に紫の雄蕊雌蕊のコントラストがとても美しい花でした。やっと見られた…、この瞬間が「風景印散歩」の醍醐味です。田村さんは私のような門外漢にも親切に花や里山を案内して下さり、その後無事に百草郵便局で風景印も集印でき、とても楽しい時間を過ごすことができました。

ところで、風景印には祭や神社仏閣、史跡など様々な題材が描かれますが、都内でも意外と花の題材が多いことに気づかされます。これまでに風景印を押しながら九品仏のサギソウや赤塚のニリンソウ、水元公園のオニバスなどなどを見てきましたが、いずれも有志の方たちが丹精込めて花を守っている姿に頭が下がります。都市化が進んだ東京で稀少な花々が見られるのは、倉沢里山を愛する会のような存在があってこそなんですね。

ジャンルは異なりますが、上野郵便局の風景印には可愛らしいジャイアントパンダが描かれています。でもご存知の通り2008年にリンリンが亡くなり、今現在上野動物園にパンダはいません。主をなくした風景印はどこか寂しいものです。百草郵便局の風景印がそうならないためにも、倉沢の皆さんには頑張ってシロバナカザグルマを守り続けていただきたいと思います。

最後になりますが、風景印は記念に押してコレクションするだけでなく、郵便物に押して、手紙や葉書を送ることもできます。だから里山の皆さんも、時々この風景印で手紙を出してみてはいかがでしょうか？「この花は都内でもとても稀少な植物で…」と話のタネにもなりますし、何より「私の住んでいるところは、こんなきれいな花が咲く素敵な場所なんだよ」というアピールにもなること、間違いありませんから！　＊ブログ「東京風景印散歩」もごらん下さい。　http://tokyo-fukeiin.at.webry.info/

野の花を大切に――――カザグルマを例に

植物写真家　安原　修次

撮影中の安原さん　助手は峰岸会長

私は群馬県中之条町に生まれ、高校卒業まで自然豊かな山村で育ったことも、花のカメラマンになったことと関係あると思う。

昭和２４年、私が中学生の春休みに、裏山からカタクリの花を掘りとって家の庭に植えたところ、「誰がウグイスバナ（カタクリの地方名）なんか植えた。修次か。山にあるものを庭になんか植えるとばちがあたる。すぐに元の場所にかえしてこい。」と、すごい剣幕で父に怒られた。「きれいな花をよく植えてくれた。」と褒められると思ったのにあてが外れた。昔の日本人は、今の人より自然を大切にし、むやみに盗掘などしなかったのだ。

《カザグルマとの出会い》

千葉県内で小学校教員をしていた昭和５０年４月、新設された船橋市立丸山小学校に転任した。５月になったら校庭の北にある雑木林で他の木にからみついて、割合い大きな白い花が美しく咲き乱れているのを目にした。たぶん庭に生えているクレマチスを誰か捨てたのだろうと思った。同僚の教員にも見てもらったが、植物名をはっきり知らなかった。そこで、船橋市に住む、日本クレマチス協会の副会長さんに知らせたところ、すぐに見に来てくれた。そして、「安原さん、大発見だよ。千葉県内には千葉市と冨里町にあるが、まさか船橋市にカザグルマが自生しているとは驚いた。」と興奮して話した。私はその時初めて野生種のカザグルマという植物名だとわかった。花がきれいで人の目につき易いので盗掘され、今では絶滅危惧種に指定されているとのこと。住宅開発などもそうだが、盗掘が絶滅の大きな原因というのは何とも悲しい。

その後教員を４８歳で退職、花のカメラマンになったが、名古屋、横浜、神戸、仙台などでの撮影でカザグルマを見つけて写した。現在この中では、横浜市にわずか数株残っているだけ（今年確認）で、そのほかはすべて絶滅したものと思われる。

《川原湯温泉のカザグルマはダムの底へ》

１９年前、「あがつまの花」（群馬県吾妻郡内）撮影の時、川原湯温泉の空き家を借りた。偶然にもそこから１００メートルの近くの雑木林にカザグルマの自生地があった。５月になったらカザグルマが咲き乱れてきれいだった。そこは、今でも民宿をやっている豊田さん所有の土地。船橋市のは白色だが、そこは白色のほか薄いブルーもあることもびっくり。もっと驚いたのは、花弁（正しくは萼の変形したもの）が３０枚もの八重咲きまであったこと。八重咲きのカザグルマを文献で調べてみると、昔は長野県と岩手県に自生していたと記録にあるが、すでに絶滅して残っていないとのこと。とすると、八重咲きのカザグルマは、今では全国で川原湯だけということになる。

しかし、全国で唯一の八重咲きのカザグルマ自生地川原湯温泉は、残念なことに近い将来ダムの底に沈んでしまう。５０年以上も昔から、ここに八ツ場（やんば）ダム建設が計画され、地元だけでなく全国的な大きな反対運動にも関わらず、今では実際に工事も始まり、住民の移転も始まった。海抜５８０メートルまでがダムの湖底に沈んでしまうが、カザグルマ自生地はもちろん、川原湯の温泉街が全部水没する。

水没する前に、カザグルマ自生地と地形・土質の似ているダムの周辺に移植して、何としても絶滅から救って欲しい。しかし当の長野原町役場では、「たかが花ぐらいでは。それどころではない。住民の移転、国道や鉄道の付け替え工事などで大変なんだから。」と取り合ってくれないのが現状だ。

《全国のカザグルマの記録を》

１年に１県の割でカザグルマ自生地が消えている。

そこで３年前から全国に現存する野生のカザグルマを写真に撮り、２年後をめどに本にまとめようと記録することをしている。今年は、北限とされる岩手県で写せたこと、そして全く予想もしていなかった東京のカザグルマを写すことができた。

これまで写した都府県名は、岩手、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、宮城、東京、千葉、神奈川、長野、山梨、岐阜、愛知、滋賀、三重、大阪、兵庫、岡山、広島、高知、宮崎、奈良、の２３都府県。来年は大分、和歌山などを予定。確認されている自生地は全国で２０数か所という記述もある。

私の住む船橋市では、２年前にカザグルマが市の花に決まったが、市民にまだカザグルマを知らない人が多い。それに自生地の木が大木になり、日照不足で花の数が３０年前の１割に減った。個人の所有地のため木も伐れないので、市で土地を買い上げてもらいたいが、財政難を理由に思うように進まない。また、市民の意識もなかなか高まって来ないのが何とも残念。言葉ではエコが大切といわれるようになった日本だが、１つ１つの植物にまで残していこうというまでには住民の意識が高まっていないのが現状である。

その点倉沢里山を愛する会は、地権者、住民、行政が協力して環境や貴重な植物の保護を実践している貴重な事例だ。周辺がほとんど宅地化された倉沢のカザグルマ、今後さらに貴重な存在となっていくことだろう。

2009.5.14 撮影　安原修次

☆終戦直後の計画に基づく八ツ場（やんば）ダムに沈むカザグルマを訪ねました。美しい薄紫の花に心動かされましたが、同時に、一つの花だけに意識を向けていたことを恥じました。自然環境だけでなく、そこに昔から住み続けてきた人々の歴史や文化、今そこを立ち退かなければならない人々の日々の暮らしや人生そのものまでもが水の底に沈められてしまうことを痛いほど感じました。自然に対する以上に、人に優しい政治・行政を望む思いを新たにしました。詩集「ダムに沈む村」（豊田政子著）　ご一読をお勧めします。（事務局にあります）

定例活動に初参加して

八王子市大塚　　酒井　長利

愛するとは、里山を守らなければならない。なにから守るのか？人間から守る。

私が参加して安心したことがあります。それは、田村さんの話した「枯れ木も邪魔にならなければ、そのままにして残す」との一言でした。人、植物、小鳥、昆虫、木々など、バランスのとれた里山と、人間が手を入れすぎれば、人にはよくても他の動・植物に良くない環境になってしまう。

私も、この地に移り住んで４０年、日々忙しく過ごし、里山を身近に見ながら、漠然と、春は若葉が美しい、秋は紅葉が美しい。このような感じでうわべだけしか見ていませんでした。今回参加して人とのふれあい、植物とのふれあい、素晴らしい体感をさせていただき、改めて里山の自然を大切にしなければと感じたしだいです。

記念樹の前で酒井さんご夫妻

この春、三浦さんの紹介で本会に入会し、同時に畑をお借りしました。２回行事に参加しました。三浦さんは、すべての事柄に対して率先して当たる行動派の人でした。最初に紹介されたのが田村さんご夫妻でしたが、人をひきつける魅力的な方とお見受けし、このような方々が中心でいる里山の会、みなさん良い方ばかりでした。

多方面に深い知識を持った方が多く、私も里山で多くの知識を吸収し、里山を深く愛していきたいと思います。妻とともに野菜を作り、行事にも出来るだけ多く参加して、生活の中の新しい１ページにしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

アリスの丘ファームが拡大します

先日来ご報告している通り、横井工務店跡地について、日野市長あてに要望書を出し、その後も関係各方面に働きかけてきましたが、要望していた「信託緑地」として樹林地にする計画は不調に終わりました。恒久的な公有緑地としたいという思いは第１段階では通りませんでしたが、この土地は日野市（産業振興課）が地権者から市民農園として無償で借り受け（固定資産税免除）、それを本会に一括管理委託することとなり、結局は当初会として考えていた形に落ち着いたことになります。市の所管部署が違うため、従来からのパートナーシップ協定と２本立ての契約になります。幹事会で検討し、現行のアリスの丘ファームの拡大と位置づけ、同じ運営をしていくことになりました。

近日中に区画割り等をして管理希望者を募集します。畑としてはまだ未知数なため、とりあえず本年度中（来年３月まで）は賛助金のお願いはせず、区画の管理だけお願いすることになりました。それ以降については状況を見ながら決定します。

皆さまのお知り合いで、緑地ボランティア活動に興味をお持ちで、かつ、畑もやってみたいという方がおられましたら、是非入会をお誘い下さい。

詳細については、改めてお知らせ致します。

４～６月の主な活動報告

4/18（土）　恒例の春の散策会。範囲が大きく拡大した本会の管理フィールドを一巡。今保全運動中の「新堂谷戸」へも足を伸ばしました。長久保緑地でお弁当。散策に先立ち、活動を開始して10年目に入った記念として、炭焼き小屋広場にサクラ（最も長寿なエドヒガン）の苗をみんなで植樹しました。（法人会員含め55名参加）

4/29（祝）　隣接する畑に迷惑が及ぶ部分を重点に草刈り（手刈り・機械刈り）、万蔵院台作業路の杭更新。アリスの丘赤道草刈り他。（35名参加）

5/16（土）　隣接する住宅に接するタラの丘斜面の草刈り、万蔵院台作業路と北緑地粗朶柵の杭更新、ブルーベリーネット、横井跡地の転落防止用手すり設置他。作業の前に2008年度の活動報告・会計報告がされ、了承されました。（トン汁他、約50名参加）

6/ 2（火）　雨のため２度順延。長久保緑地の手刈り・機械刈り。事前に、有志数名で保護対象植物にマーク付けしました。（16名参加）

6/13（土）　第１緑地崖面とその周辺の草刈、多摩市側赤道の機械刈り他。事前の保護作業で、新しく管理範囲になった第１緑地西側の崖面に貴重植物が多数確認されました。（ミネストローネ他、50名参加）　日野市雑木林ボランティア講座受講生約25名が見学来訪。

6/25（木）　長久保緑地に多種類の苗木を他の緑地から移植。記念樹広場ではマイツリーの表示も。数年後には豊かな植生の林になるのを楽しみに。（26名参加）

6/27（土）　横井跡地東の大木数本を伐採・片付け。（16名）

７～９月の主な活動予定

各回の持ち物：バンダナ、手袋、飲料水、MY食器等

7月19日（第３日）　（雨天の時は翌日に順延）
１０：００　炭焼小屋広場集合
万蔵院台他の落ち枝・枯れ枝片付け他、病院側粗朶柵の杭更新他（カレースープ、梅ジュース、ブルーベリー）

8月8日（第２土）　（雨天の時は翌日に順延）
１０：００　炭焼小屋広場
万蔵院台の栗林を中心に下草刈り、他
（オープンサンド、梅ジュース、ブルーベリー）

9月12日（第２土）　（雨天の時は翌日に順延）
１０：００　炭焼小屋広場
万蔵院台道路側崖面、タラの丘下草刈り他
作業後は鉄板焼きそば他の予定です。

7月26日（第４日）　（雨天の時は中止）
９：３０　**夏休みこども自然感察会**　炭焼小屋広場
木や竹で遊び道具を作ります。昔子供だった方も。

8月23日（第４日）　（雨天の時は中止）
９：３０　**夏休みこども遺跡教室**　炭焼小屋広場
昨年できなかった庚申塔の拓本作りに再挑戦します。

☆☆☆☆☆　事務局から　☆☆☆☆☆

☆本会が管理する駐車場は、管理上会員外の利用はお断りしています。会員が利用する場合、必ず本会発行の駐車票を外から見える位置に掲示して下さい。旧資材置場側の３台分が増えました。中央の通路にも駐車できますが出来るだけ短時間にして下さい。駐車票をご希望の方は事務局にお申し出ください。